

田根の森林・林業への介入



田根の林道の写真

田根森林・林業プロジェクト

田根の森林・林業プロジェクトは、田根にデイケアハウスを設計した際に立ち上がったプロジェクトです。設計の際に、地元の工務店や業者に「地元の木を使いたい！」と、いう要望を出したのですが、思ったより木が実際に集まりませんでした。その理由をきいたところ、「現在木は切っていないから。」と言われてしまいました。しかし、地元の方々には田根名産の「谷口杉」を自慢します。地元の方の自慢の木なのになぜ生産しないのだろうかという疑問をもち、そこから田根の森林や林業について研究することになりました。わたしは、この森林研究に至った背景がとても気になりました。田根の住民の人自体があまり森林や木という存在に興味がない、田根という場所は自然に囲まれた、東京にはない魅力がいっぱいあるところだということ、当たり前になりすぎて意識していないのでは、と感じました。

わたしは、田根の人々に少しでも「木っていいな。」と、思ってもらって、少しでも木に対して関心を持ってもらい、今一度田根の環境の良さを実感してもらえたらという思いで介入に取り組むことにしました。

主観的な私の「木」とは・・・？

では、介入に際して、主観的な目がヒントになると思い、私が木に触れていいなと思えるときを考えてみました。

- ・授業中に窓から木が見えるとき。
- ・木造住宅の木の匂い。
- ・木製家具の人口では出せない色の落ち方、手触り、木特有の温もり。

などだと思いました。この、わたしがいいなと思える良さを田根の人にも実感してもらえ介入の仕方がよいと考えました。

介入方法

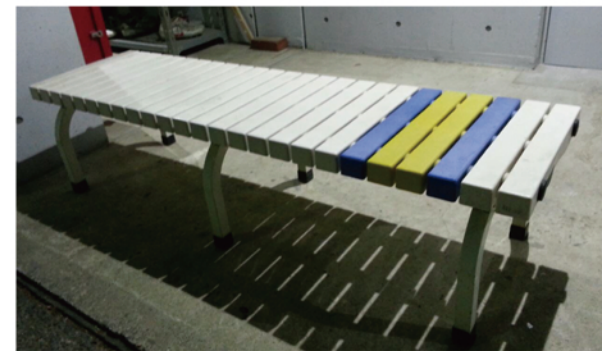
いままで、森で境界線 WS だったり、家具 WS だったりをしていて、住民が木とふれあえる機会を作っていたので、それに +a する形の展示を同時に開催するという介入の仕方です。木を知るにはまず森の中に入るという行為が最も必要だと感じるので、森の中で展示を開催します。その森で囲まれた空間を作り出し、その中で電車のホームの映像と音響を流し、プラスチックのベンチに座ってもらいます。一方隣に谷杉で作った同じ大きさのベンチを置き、座ってもらうという展示です。各空間とベンチで思ったことを大事にしてもらう展示です。(囲い空間の壁の素材コンクリ)



介入実験



プラスチック製と同じ大きさの木のベンチを作りました。



比較対象としてのプラスチックのベンチ

どのようなものになるのかを掴むために、実際にやってみることにしました。sfcの部室棟の裏にある小さな森のような場所を使って、そこを田根の森に見立てて実験してみました。白く塗ったパネルを三方向に建てて、ベンチを置きます。下にはベニヤを敷いて囲われた空間を作りました。本来なら上の天井も付けて、手前も遮断した空間にしたかったのですが少しできなかったのがこの状態で行いました。白パネルで囲われた空間の、壁の方を向いて、映像を見て座ってもらいました。今回の写真はこちら側を向いているものばかりですが。



実験装備を置いた際の写真です。

実験結果

実験中に思ったことをどんどん言ってもらいました。

白い空間 プラスチックベンチの方

- ・人が多そうなイメージがして、自然と下をうつむいてしまった。
- ・普段駅のホームにいたらスマホをいじっているの、スマホを取り出しそうになった。
- ・日常で逆に安心感を抱いた。
- ・映画館みたいで特別感
- ーベンチー

- ・おしりいたい
- ・別に何も感じない。

森の中 木のベンチの方

- ・木のベンチの手触りがいいからベンチに手をかけると、自然と体が上を向いて、木や周りを見るようになる。景色を見るようになる。
- ・他に何も情報がないから五感が働く感じがする。風や嗅覚。
- ・解放感できもちいい。
- ーベンチー

- ・木の方がおしりの温かみ感じる。
- ・6人中6人が木ベンチがすきだと答えた。

まとめ

この展示をやったとしても、急な心の変化はないと思いますが、皆森の中に足を運んでくれるという事実が重要なのではないかと考えます。実際はベンチを谷杉でやれば谷杉のPRにもなります。少しでも木とふれあい、考えていただく機会がもうけられるのではないかと思います。また、田根の自然を再発見できるのではないかと思います。



6人の方々に実験に参加していただきました。

